

歩歩前進しよう

三八九六票の重みを 考えてがんばろう

館山支部 電運士 42才

三八九六人の人々が中江さんに投票した重みを考える時、組合員全員が一丸となって船橋市民の反戦・反核の意識を掘りおこし、ピラをまき、オルグを行うなど足でかちとつた成果であり大切にすべきです。

当選した以上、この人々と中江さん自身がより密に、これからの闘いにがんばってほしいとおもいます。

第四位当選は十分に評価される

勝浦支部 電運士 45才

中江選挙闘争の重要性は理解しつつも、前段での闘いの不十分性はかくせません。

しかしながら中江選挙闘争の重要性、関心度は日を追うにつれて高まり、約80%の組合員の参加を得たこと

とは大きな意義があったとおもいます。

結果として三八九六票、第四位当選は、動労千葉の組織力、中江顧問の信頼度として十分に評価されます。

「三里塚・反合」路線の勝利だ

津田沼支部 電運士 38才

砂ぼこりをあげ、全精力を傾注してがんばった結果として当選をかちとることができました。

これは動労千葉の「三里塚・反合」路線の勝利であり、80年代労働運動の進むべき道だとおもいます。

一步一步前進し勝利しよう

銚子支部 電運士 44才

中江選挙闘争勝利おめでとう。
中江さんや動労千葉の組合員、お

嶋田誠の言動

革マルは権力の手先

動労千葉が組織の総力をあげて、中江・北原選挙闘争を闘っている渦中で、その敗北を願う様々な妨害、敵対をくり返してきたのが他ならぬ革マルです。

すなわち、四月以降全国で三里塚を闘う学生の一撃を開始した革マル派は、わが中江選挙闘争に対しても中江候補、関川委員長、選対事務所への謀略電話をはじめとし、実際に選対車や組合員の車を傷つけ、動労千葉を名乗って戸別訪問しイヤガラセをするなど、悲質な敵対を行ってきました。

とりわけ四月十九日には、「六時に事務所を爆破する」「今日の街宣はやらせてもらおう」「事務所は全部包囲した」などのいわゆるナーバス電話を集中し、中江事務所を名乗って「剣菱」20本を届けさせたのです。

この革マルこそ真正正銘、権力の手先でなくてはならぬか。
中江勝利は、革マルの破壊策動を打ち破ってかちとつたのです。

北原当選に落胆する嶋田

ところで当の革マル分子、「千葉地本津田沼支部長」・嶋田 誠の今日この頃を紹介しよう。
五月十一日、こつそり津田沼寮に食事に来た嶋田は、津田沼支部青年部員に追及されて、

青年部員「北原さんが当選したじゃないか」
革マル・嶋田「よかつたじゃねえか、おめでたいね」と完全に敗北を認める。

さらに銚子の「本部」組織内候補の落選について、
革マル嶋田「ししょうがねえよ、落ちたもんは」とこれまで敗北を自認しがつくり。

そして、青年部員の追及にたまりかね食事の途中で逃げようとしたので、
青年部員「にげるのか」
革マル嶋田「20日が楽しみ、お前ら泣くなよ」と権力の弾圧を唯一の頼みとした捨てぜりふを吐いてトボトボにげだす。

※「20日」とは、コロビ屋嶋田らが、デッチ上げ告訴した、かの「6・12事件」の判決公判（五月二十日）のことである。警察・革マル連合の信奉者嶋田のどこまで卑劣な本性であることか。権力・当局の手先・革マル嶋田 誠を追放するぞ。

中江選挙闘争を叩いた組合員の感想 その2

よび支援の方々の力で勝利をかちとり、一人一人の力が結集すればできることの証明である。

今後この勝利を生かし、春闘・反合理化・職場規律などいろいろな問題に一步一步前進し勝利していかう。

本当に勝つてよかつた

千葉運転区支部 電運士 37才

なんとしても中江さんを勝利させなければ、動労千葉として独立して以降築き上げてきた全てが水泡になつてしまふのだ、と、自分に言い聞かせるようにオルグにかけずり回つた。厳しい闘いであつたが本当に勝つて良かった。

これからも中江さんに、船橋においてはもちろん、動労千葉のためにも奮闘してもらいたい。